

植物遺伝資源探索導入調査報告書 投稿要領

目的：

本報告書には、農業生物資源ジーンバンク事業等による探索・収集及びその関連研究をはじめとして、植物遺伝資源にかかわる現地調査・研究の論文及び関連する情報を掲載する。

投稿者：

投稿原稿の筆頭著者または責任著者（コレスポンディング・オーサー）は原則として農研機構職員とする。ただし依頼原稿はその限りではない。

植物遺伝資源探索導入報告書編集委員会：

本報告書の運営や投稿論文の審査を行うために、編集委員会を置く。編集委員は農研機構遺伝資源研究センターに所属する植物関係研究職員と外部有識者から構成され、編集委員長は遺伝資源研究センター長とする。編集委員の任命は編集委員会の承認により行う。また、編集委員会の業務を行うために遺伝資源研究センター内に事務局を置く。

投稿原稿の体裁・提出：

- 投稿原稿は日本語または英語とし、「別紙 1 投稿原稿作成要領」に従って作成する。
- 投稿原稿は電子ファイルにて編集委員会事務局に提出する。
- 投稿原稿は誤字脱字の無いように投稿前に十分に確認すること。
- 英文は、必ずスペルチェックを行うこと。
- 掲載が決定した投稿原稿は、遺伝資源研究センターより業者委託して英文校閲を行う。
- 著者は、審査結果を受け取った後、速やかに修正し担当編集委員へ送付しなければならない。原則 2 週間以内とするが、やむを得ない事情により送付が遅れる場合は、担当編集委員の了解を受けること。
- 掲載の順序、論文の体裁などは編集委員会で決定する。

投稿原稿の審査：

- 編集委員会は投稿原稿に担当編集委員を指名する。
- 依頼原稿及び各投稿論文に 2 名以上の査読者を置く。査読者は事務局が候補者を提案し、担当編集委員の了解で決定する。
- 査読者の審査やコメントについて、担当編集委員は必要に応じて著者へ助言指導を行う。
- 2 名の査読者が掲載可と判断した後に、担当編集委員は掲載の可否及び追加修正の可否について判断を行う。最終的な掲載の可否は編集委員会により決定する。

校正：

著者校正は 2 回行う。1 回目は英文校閲が済んだ原稿について、2 回目は最終原稿について、著者校正を行う。校正刷は受領後 3 日以内に校正の上、編集委員会事務局に返送する。

版權：

農研機構「刊行物著作権取扱規程」に従い、掲載された現地調査・研究の論文及び関連する情報の著作権は著者に帰属する。著述した者に帰属する著作権は刊行物著作権取扱規程中の別紙様式（第3条関係）「著作物利用許諾書」により、農研機構に無償にて利用の許諾を行う。著者は最終原稿の著者校正の際に原稿と併せて送付した「著作物利用許諾書」に署名・捺印の上、校正原稿とともに編集委員会事務局に送付する。

本誌に掲載された全ての論文は、open access としてジーンバンクのウェブサイト (https://www.gene.affrc.go.jp/index_j.php) 及び農研機構機関リポジトリ (https://repository.naro.go.jp/?action=repository_opensearch&index_id=118) から公開され、遺伝資源研究センター (genebank@naro.affrc.go.jp) の許可を得て転載することが出来るものとする。

連絡先：

植物遺伝資源探索導入調査報告書（植探報）編集委員会事務局
〒305-8602 茨城県つくば市観音台2-1-2
農研機構 基盤技術研究本部 遺伝資源研究センター
E-mail： genebank@naro.affrc.go.jp

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

令和3年4月1日 遺伝資源センターを遺伝資源研究センターに変更。

【別紙 1】

植物遺伝資源探索導入調査報告書 投稿原稿作成要領

(令和 2 年 4 月 1 日現在)

書式：

1. A4 用紙サイズで、横書きとする。原則 Microsoft Word 形式で送付する。外字の使用は禁止する。
2. 原稿は、表題、著者名、所属機関、責任著者連絡先（電子メールアドレス）、要約（以上について、和文原稿は和文及び英文）、キーワード、本文、引用文献の順に記載する。英文原稿の場合は、本文の最後に和文摘要を付ける。
3. 本文は、1. 目的、2. 材料と方法（対象植物、収集・調査方法）、3. 収集（調査）結果、4. 考察、5. 謝辞を原則含む。
4. 著者名の英語表記は、名-姓の順とし、姓はすべて大文字表記とする。
5. 農研機構に所属する著者の所属機関の英語表記は以下の URL に従う。
<http://www.naro.affrc.go.jp/english/about-naro/organization.html>
例) Institute of Vegetable and Floriculture Science, NARO
6. 連名著者の所属が異なる場合、著者名の右肩に数字（例^{1),2)}をつけて所属を示す。
7. 原稿本文内で初出となる生物の学名には、命名者名を明記する（例：*Oryza sativa* L.）。
8. 引用文献は以下のように記載する。
眞田康治・小路敦・田村健一・奥村健治（2012）北海道におけるオギ遺伝資源の探索・収集。
植探報 28: 113-123.
Takahashi Y, Baba-Kasai A, Akiba M, Iizumi T and Tomooka N (2017) Collection and conservation of legume genetic resources in Oita and Miyazaki Prefectures of Japan in 2016. AREIPGR 33: 1-27.
9. 原稿は本要領に準拠して作成するものとする。作成時に不明点及び疑問点が生じた際は、ジーンバンクのウェブサイト (https://www.gene.affrc.go.jp/index_j.php) または農研機構機関リポジトリ (https://repository.naro.go.jp/?action=repository_opensearch&index_id=118) にて、本報告書の最新巻に掲載された和文及び英文原稿を参照すること。

図表及び写真：

1. 各図表・写真は、1 ページに収まる形に作成する（見開きにしない）。ただし、遺伝資源収集リスト詳細の表を除く。
2. 図・表、写真には表題（和文・英文併記）を付け、必要に応じ説明などを付ける。
3. 表は、原則 Microsoft Excel 形式で作成する。セル結合などの使用は避ける。
4. 図表及び種子、果実、穂等の収集品以外の写真は、本文中の適切な位置に配置される。ただし、写真については、その枚数が多い場合、収集品の写真の直前にそれらを一括して配置する。
5. 図表は文書ファイルに貼り付けず、別ファイルにて作成、送付する。図、写真についてはオリジナルの画像ファイルも併せて送付する。

遺伝資源のパスポート登録：

1. ジーンバンク事業にて収集した遺伝資源は事前にパスポート登録し、本報告書には JP 番号を付けて掲載する。